

# 長田下地域 振興会だより 第20号

2014年(平成26年)7月24日発行

## 4/20(日) 長田下地域自治振興会 平成26年度総会

当日は、多数の参加（出席56名と委任状48名）により開幕。浜田市長を迎え、「多文化共生の社会づくり」、「自助による健康管理・市民総ヘルパー構想」についての講話を頂き、その後に総会を開催。平成26年度の行事や予算、役員人事について決定。また、「長田下地域防災会」についても審議・決定しました。紙面の都合上詳細は省略しますが、長時間でのさまざまな議事も参加者の協力により無事終了、参加の皆様ご苦勞様でした。



総会には多くの会員住民が集いました

※主な役員【会長】笹岡邦彦、【会長補佐】今年からの役職、【副会長】各地区行政嘱託員その他の役職は省略します。

これまで長年事務局長を担当して頂いた方をはじめ、各分野でご尽力された役員の皆様ありがとうございました。また、今年度も引き続き役員をされる方、今年から役を担われる方、ご苦勞をおかけしますがよろしくお願ひします。  
(担当T.K)

## 6/28(土) 平成26年度第1回ふれあいの集い

下長田集会所で第1回ふれあいの集いが、28名の参加で行われました。恒例の血圧測定に始まり、ご長寿（満80歳以上）の方へお祝いをさせていただきました。

当日参加して頂きました5名の方には、自治振興会笹岡会長より直接お祝いを渡しました。

長田下地域自治振興会内には、本年3月末現在で44名の長寿の方がいらっしゃいます。今後益々のご健勝をお祈りいたします。

両祖さんの10数曲におよぶハーモニカ演奏に、歌声・手拍子が加わり、大変和やかでした。「かがやき」の2名の方にご指導頂き、身体をほぐす楽しい体操を教わり、皆で行いました。お茶・おやつを頂きながら、談笑した楽しい一日をみなさん過ごされました。

(担当K.M)



皆で体操

## 尼子三兄弟ゆかりの墓清掃 5/24・25

尼子三兄弟ゆかりの墓は、私たちの振興会の史跡としては、誰でもが認める大切な史跡です。昔NHKの大河ドラマで毛利元就の物語が放映された時は、多くの方が遠方からも探訪されました。最近でも、数は少なくなりましたが、時にはバスでおいでになる方々もいます。

さて、そのゆかりの墓付近が倒木等でひどく景観が損なわれてしまいました。振興会の協議の結果、倒木の整理等をはじめ付近の環境整備を図ることになりました。

当日（5月24・25日）は役員をはじめ多くの方が参集し、付近一帯の美化に汗を流しました。おかげで、一帯はどなたが見学に来られても、昔をしのぶのにふさわしい景観となりました。

それにしても、ゆかりの墓は多くの人たちの手によって、守り継がれていることを実感することができました。

機会があれば、ぜひ訪ねてみてください。

(担当 B. T)



参加の方々、ご苦労様でした

### 長田の川柳名人をみィーつけた！

……その人は、カープ大好き人間『中村さん』……

中村さんは、心の向くまま、気の向くまま、川柳を書いておられます。川柳を始められたきっかけをたずねると、「カープが負け続け、成績が低迷していた折、腹立ちまぎれに川柳にして、中国新聞に投稿したら、編集者が『時事川柳』の欄に取り上げてくれて、それから、面白うなって書き続けている」と、おっしゃっていました。中村さん、これからも味のある川柳を書き続けてください。

中国新聞に掲載された作品をご紹介します。

(担当 F. T)

- ・ 「投低・打低 これじゃ到底 勝てんのう」
- ・ 「久々に 主役を感じる 我がカープ」
- ・ 「球春の 音もだんだん 高くなる」
- ・ 「今更に 減反やめても 田は野山」

作者 中村人司さん(長田4区)

## 「下長田地区の文化財保護と伝承」について考える⑪

今回は、茶臼山城主の姫の墓と伝えられる、『おちよさんの墓』を訪ねることになりました。この墓（宝篋印塔ほうきょういんとうという供養塔）は、旧真徳寺跡の近くにひっそりと立っていました。

下長田の昔話や伝説をあまり知らないわたしたちは、古老の話から、ただ、『おちよさんの墓』とだけ耳に残っていたので、「お蝶さんか、おチョウさん」といった村の庄屋の娘の名前くらいの感覚で聞き流していました。

『向原町の民話と伝説』（玉井寿郎著）によると、茶臼山城主の娘、千代姫は、長田の名田主、松原弥左衛門勝盛の息子 弥太郎と恋仲であった。以前から、内藤氏と井原氏（現白木町）との領地の境がはっきりせず、争いが絶えなかった。そこで、新宮の上側を井原氏に、川向うの松尾、迫田を内藤氏にと、明確な線引き協定が結ばれて、その証しとして、17才の千代姫が、25才の井原四郎兵衛の嫁に、政略結婚させられた。千代姫は、生木を裂かれる思いで松原弥太郎と別れ、涙をのんで、鍋谷城（井原氏の居城）に輿入れした。姫は、夫の優しさを頼りに日々を仲睦まじく過ごしていたが、尼子晴久率いる3万の大軍が、吉田の郡山城に攻め込んできた。

そのため、夫の四郎兵衛は、毛利軍に参戦し、勇猛に戦ったがあえなく戦死する。若くして後家になった千代姫は、仕方なく実家に戻り、長田の徳丸に庵を建て、髪をおろして『応暢院おうちょういん』となって、夫の供養を続けた。また、長田で恋仲だった、松原弥太郎（元服後、主君内藤元康より康盛と命名される）も、尼子の月山富田城攻めに参戦し、彼も毛利軍のために戦い、壮絶な最期をとげる。

戦国乱世の中、数奇な運命をたどる千代姫こと応暢院さんは、人生無常を感じながら、いちずに、念仏と人助けに打ち込んだそうです。そして、里人



『おちよさんの墓』（宝篋印塔）

から、『応暢院さん』とか『お千代さん』と慕われて、盆踊り唄にまで歌い継がれていたとの言い伝えがあるそうです。（現在の盆唄には、歌詞は残っていません。）

『おちよさん（おちよさん）の墓』とは、こうした数奇な人生をたどった姫を供養する長田の里人の心が、隠されていたのですね。

文化財の名称も、石材などに明確に書き残しておくといいですね。（担当F.T）

### 盆踊りのお知らせ（振興会後援行事）

8月14日（木） 19時開場 下長田盆踊り 会場…中長田集会所  
金魚すくい、かき氷、飾り物、打ち上げ花火、踊りなど

# 下長田人物伝 (5)

パッケージが新しくなった香ばしいかおりと味の「三矢えびす」。市内全域で栽培される以前から、ハブソウ茶は向原の特産として作られていました。

えびす茶として人気のハブソウ茶を広く栽培されている曾利義信さんと節子さんご夫婦(7区下)にお話を伺いました。

二十歳頃はまだ牛を使って田を耕していたそうですが、昭和36年ごろより耕運機に変わったという農業の話題から話は始まりました。ひと昔前には、濃く煮出したハブソウ茶が胃腸のくすりにもなったそうですが、臭いを嫌ってか鹿が食べないことが栽培のきっかけのひとつだそうです。



二枚の畑13アールにお茶を栽培され、稲作も3軒の田んぼを請け負って作られています。春先から支度をしておいた畑に4月25日から2、3日かけて種を落として、5月の連休あたりは田植えと、まさに農繁期です。



畑で作業中の曾利さんご夫婦

5月20日ごろに、お茶は3センチから5センチに成長しますが、雑草の方が勝ってしまうので、丁寧な鍬入れが大切だそうです。また苗は、一本根で繊細だそうです、水を切らさないよう気をつけているとも言われていました。

今年のえびす茶の生育は、朝の寒さでバラつきがあり、あまり良くないそうですが、薬を一切使わず、手作りに徹しておられる姿勢に頭が下がります。

梅雨明け直後から収穫、出荷は始まります。4時半には畑に出てお茶を刈り取り、3センチの長さに切ったものをハウスで干して出荷します。3日で16キロを目安に暑さとの戦い、時間との競争だそうです。最近では根元から10センチほど上を刈り、もう一度生育させたものを、9月に「2番茶」として刈り取ります。腰痛などしん苦なことも多いそうですが、今後も仲間と協力して、まろやかな甘みを感じてもらえるお茶を作っていきたいと言われていました。

神の倉の水脈から引かれたお庭の池には数えきれないほどの立派な鯉が悠々と泳いでいて、50年以上生きている鯉もいるそうです。

取材も多く受けられている曾利さんをまたテレビ画面で拝見するかもしれません。ご夫婦共にお体をいたわりつつ、これからも納得のいくお茶を作っていただきたいと思います。

(担当T.K)

発行： 長田下地域自治振興会 担当： 広報委員会、企画調整部

「広報委員会より」・・・今年も昨年と同じメンバーが担当しています。少しでも地域の情報をお届けできれば幸いです。(委員：谷林文男、寺尾文尚、火上保雄、松田清、児玉尊子、金岡俊信、岩見達也)